

児童発達支援

チェック項目

				はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1	・児童と幼児が同時に教室にいると広さ等を考えても狭い為、2部制にしています。 ・ボール遊びのネットを導入などにて安全面を管理しております。			
	② 職員の配置数は適切である	6	1	法令上の配置基準+1以上の人数になるように調整しています。			
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	1	来所後の準備などを感覚的にできるように教室配置をおこなっております。 また、教室内のルールを視覚的にわかるようにしております。			
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	1	清掃・消毒は毎日。 また活動に合わせて、机等は適宜場所を変えています。			
業務改善	⑤ 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	2	日々、朝礼及び終礼を実施しています。そこでのまとめを月に1度のMTGで行っています。	MTGにでれなかった職員は周知をするためのノートを読むように促しています。		
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	2	毎年行っています。	職員間の周知を改めて行います。		
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	1	毎年行っています。	職員間の周知を改めて行います。		
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2	実施しています。	職員間の周知を改めて行います。		
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	2	実施しています。 また、外部の研修のお知らせも事務室内に貼っています。	職員間の周知を改めて行います。		
適切な支援	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7					
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	2	アセスメントシートを用いて全児童に実施しています。	職員間の周知を改めて行います。		
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7					
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7					
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	2	基本的に全職員で意見出しを行っています。 やりたいこと等どんどん意見を伝えください。	職員間の周知を改めて行います。		

の提供	⑯ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	7			
	⑯ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			
	⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1	終礼にて振り返りを毎日実施しています。パート職員など、終礼にでられない職員は引き継ぎ内容あれば、全体連絡のLINE等で確認できます。	職員間の周知を改めて行います。
	⑯ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	2	連絡帳や子育てサポート加算の記録等2つ以上の記録をつけており、それとともに日々改善しています。また月1MTGで共有しています。	職員間の周知を改めて行います。
	⑯ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5			
関係機	④ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			
関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉗ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	2	連携しています。	職員間の周知を改めて行います。
	㉗ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			該当児童なし	
	㉗ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			該当児童なし	
	㉙ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1	連携しています。	職員間の周知を改めて行います。
	㉙ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	1	連携しています。	職員間の周知を改めて行います。
	㉙ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2	連携しています。	職員間の周知を改めて行います。
	㉙ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある。	4	3	公園やお出かけ時に一緒に遊ぶなどの交流があります。	職員間の周知を改めて行います。
	㉙ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	2	参加に向けて職員補充をすすめています。	
	㉙ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			

保護者への説明責任等	⑩ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている。	6			
	⑪ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			
	⑫ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6			
	⑬ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			
	⑭ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4			
	⑮ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			
	⑯ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			
	⑰ 個人情報の取扱いに十分注意している	7			
	⑱ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			
	⑲ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5			
非常時等の対応	⑳ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6			
	㉑ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			
応	㉒ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	6			
	㉓ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			
	㉔ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	2	作成してあります。 キャビネット内に保存してあります。	職員間の周知を改めて行います。
	㉕ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	2	実施しています。	職員間の周知を改めて行います。
	㉖ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	1	実施しています。	職員間の周知を改めて行います。

放課後等ディーサービス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	児童と幼児が同時に教室にいると広さ等を覚えてもらえない為、2部制にています。 ・ホール遊びのネットを導入などにて安全面を管理しております。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	法令上の配置基準+1以上の人数になるように調整しています。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	来所後の準備などを感覚的にできるように教室配置をおこなっております。また、教室内のルールを視覚的にわかるようにしております。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	清掃・消毒は毎日。 また活動に合わせて、机等は適宜場所をえています。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1	日々、朝礼及び終礼を実施しています。そこでのまとめを月に2度のMTGで行っています。	MTGにでれなかった職員は周知をするためのノートを読むように促しています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	4		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	2	実施しています。	職員間の周知を改めて行います。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等ディーサービス計画を作成しているか。	7			
	13	放課後等ディーサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			
	14	放課後等ディーサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2		
	16	放課後等ディーサービス計画には、放課後等ディーサービスガイドラインの「放課後等ディーサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援、地域連携」のねらい及び支援内容を踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案チームで行っているか。	6	1		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等ディーサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	1		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や割り勘について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	終礼にて振り返りを毎日実施しています。パート職員など、終礼にでられない職員は引き継ぎ内容があれば、全体連絡のLINE等で確認できます。	職員間の周知を改めて行います。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	2	連絡帳や手書きでサポート加筆の記録等2つ以上の記録をつけており、それをもとに日々改善しています。また月1MTGで共有しています。	職員間の周知を改めて行います。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等ディーサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	2		
	24	放課後等ディーサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	7			
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参加しているか。	7			
	27	地域の保健・医療（主に医療や協力医療機関等）、障害福祉・保健・教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時間の対応・トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園・認定こども園・児童発達支援事業所等との間で情報共享と相互理解に努めているか。	5	2	連携しています。	職員間の周知を改めて行います。
	30	学校を卒業し、放課後等ディーサービスから障害福祉センター事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	1		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修をかける機会を設けているか。	2	5	連携しています。	職員間の周知を改めて行います。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	5	2	連携しています。	職員間の周知を改めて行います。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	2	参加に向けて職員補充をすすめています。	
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持ちているか。	7			
	35	家族の外向力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレンツ・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	37	放課後等ディーサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえているか。	5			
	38	「放課後等ディーサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等ディーサービス計画の同意を得ているか。	7			
	39	家族から子どもの育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3			
保護者への説明等	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があつた場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	2	体制整備をしています。	職員間の周知を改めて行います。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定・連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3		
	46	事故防止マニュアル・緊急時対応マニュアル・防犯マニュアル・感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難・救出の備え必要な訓練を行っているか。	5	1		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	2	しています。	職員間の周知を改めて行います。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1		
	52	ヒヤリハットを事業所内に共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	5	1		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	1		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等ディーサービス計画に記載しているか。	6			
非常時等の対応	55	事業所名	ハートライン清水町			
	56	保護者評価実施期間	2024年 12月 1日			
	57		2024年 12月 14日			
	58					
	59					

○保護者評価有効回答数	(対象者数) 35人	(回答者数) 32人
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日	~ 2024年 12月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 16日	

	事業所の強み（※）だと思われるのこと ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	理学療法士、言語聴覚士等の専門性の高い職員がいること。	専門性の高い個別・集団活動。	職員数を確保し個別指導の充実を図ってまいります。
2	児童に寄り添った療育の提供。	子どもの実態に応じて活動や利用時間等を調整しています。	引き継ぎおこなってまいります。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われるること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内での連絡事項の共有。	勤務時間が異なる職員同士での情報共有に難がある。	・連絡用のSNSの活用。 ・月1MTG共有ノートの活用。
2	事業所の取り組みについて保護者への周知が弱い。	希望や質問があつても職員に直接いうほどでもないものがある。	・質問や相談がしやすいような関係性づくり。 ・おたよりやSNSを活用した広報活動の実施。
3			